

わたしの
おきのに
いり

岩手の手しごとで暮らそう

Craft of Iwate
My favorite things



手しごとで
くらしをゆたかに
きもちよく。



スプーン／安比塗漆器工
房、カップ／（右）陶房
金沢、（左）陶來、ポット
皿／大沼道行、コースター
／蟻川工房、ポットマット
／盛岡ツイード

岩手山を見上げる大地のもとで
丁寧につくられる
手しごとのモノたち。
そこに感じる
作り手の思いを受け取って
日々、使い込むうち
食べることで、働くこと、語らうこと、
そんな日常的なできごとが
心地よい時間へと
変わっていくものです。
手しごとで、くらしをゆたかに
きもちよく。
その愉しさを知る
5人の皆さんに
「おきにいいり」のモノを
紹介してもらいました。

※ご紹介した工房はギャラリーではない場合があります。
見学希望などは適時お問合せください。



小さい鉄瓶で、手軽に
おいしいお茶を淹れています。

生活用品店店長 堺田佳代子さん



盛岡市内の「物茶店 raum」の店長。店主セレクトの生活雑貨・工芸品の買い物と、それらの一部を使った「喫茶」が楽しめる。モノはもちろん食へのアンテナも高い

南部鉄器

もともとシンプルなデザインの雑貨や工芸品が好き。それで、従来の鉄瓶よりも小さく、シンプルな形のこの鉄瓶を見た時、「いいなあ」と思ったんです。しかも実際に手に持ってみると思っていたよりも軽くて、使いやすそう。店でお客さまにお茶やコーヒーを出す時に使えるかも、と思って購入したら、正解でした。

鉄瓶で沸かした湯は、雑味がなく味わいがまろやかといわれていますがその通りで、お客さまからも「おいしい」と言われています。

何より、鉄瓶を使うことで、私自身の暮らし方が変わりました。「お湯を沸かしてお茶やコーヒーを淹れる」という行為を意識するようになったり、それ以外の日々の営みも、丁寧になったような気がします。



最近も、小さめで、マンションのキッチンにも合うデザインの鉄瓶が増えていいる。湯を沸かしたあと残りを捨て、ふたととったまま置いておけば余熱で乾くので、手入れも楽。写真は鉄瓶工房高橋の鉄葉缶「黒丸」

岩手の南部鉄器には盛岡周辺と奥州市水沢区の2カ所のふるさとがある。そのうち盛岡周辺の南部鉄器は、藩政時代、盛岡藩主南部氏が甲州や京都から召し抱えた鋳物師・釜師が作った茶の湯釜や武具がルーツ。特に茶の湯釜からは、現在の南部鉄器の代名詞ともいえる鉄瓶が誕生した。

あられ文様の重厚な鉄瓶も健在だが、最近では、欧米化した現代の生活空間にも合うデザインや用途の鉄瓶・鉄器が数多く作られている。例えば、ケトル型の小さい鉄瓶やモダンなデザインの鉄瓶、カラフルな急須、器として食卓に並べても遜色ない洋鍋やポウルなど。

市内中心部には、伝統を受け継ぐ老舗の工房や取扱い店がいくつか点在しており、街歩きがてら商品を見比べるのも楽しい。

茶の湯釜や
武具がルーツ。
現代的な
デザインも登場。

●南部鉄器協同組合
tel.019-689-2336
<http://www.ginga.or.jp/~nanbu/>



明治創業の「釜定工房」の工房と店内。三代目の宮伸穂さん（上写真の右）が心がける、「直感的に『使ってみよう』と思われるようなデザイン」は、全国的にも評価が高い

盛岡名物「じゃじゃ麺」にも おすすめの器です！

主婦 佐々木寿美子さん



盛岡市在住。2人の子育てをしながら、フリーアナウンサー・ライターとしても活動中。日常の暮らしに、できるだけ地元の食材やクラフトを取り入れることを心がけている

やきもの

毎日の食卓で大活躍している「てまる」の器。地元作家がつくる介護用食器シリーズの器なのですが、子どもから大人まで使いやすく工夫されているんです。適度な重さと安定した形で、片手でもすくいやすいのが特徴。皿のふちに返しがついているから、カレーなども最後の一口までキレイに食べられます。深みがあつて、何を入れても収まるので便利です。

以前、友人の結婚祝いに、「てまる」を中心に地元のクラフトをカスタマイズして贈りました。ギフトって何を贈ったらいいか悩みますが、自分が使っていていいと思えば、安心してプレゼントできます。おかげで、カルパッチョやサラダなど頻繁に使ってくれている様子。地元のモノを贈ることが、盛岡の文化を知ってもらおうきっかけにもなりますね。



あらゆる人が美味しく食事できる介護食器「てまる」の器は、「てまるプロジェクト」に参加する「陶来」「陶房金沢」などによってつくられる

盛岡市を流れる北上川を中心に西部には岩手山や八幡平、そして東部には北上山地がそびえる。陶土、薪、水などが身近で手に入り、明治期以前は盛岡市内にも十数カ所の窯があつたという。

現在、盛岡近郊に大規模な窯元はないが、益子や九谷など全国の産地で修業をした若手の作家も多く移り住み、作陶に励んでいる。自然豊かな環境でじっくりとモノづくりに向き合いながらも、首都圏とのアクセスが良いことが工房を構える理由の一つと言える。

個々の作風は多岐に渡るものの、同じ北国の風土から生まれた器たちには、共通して感じる大らかなさがある。飽きのこないデザインや色、素材さに走らない質感は、和洋中を問わず日々の食卓に使える器が多いので、使う愉しさを味わえる。

恵まれた環境で
生み出される、
大らかな
ふだん使いの器。



大沼道行さんは、益子や笠間で作業したのち紫波町に開窯。現在はおもに県外のギャラリーなどで作品展を開いている

- 工房・陶来
（「てまるプロジェクト」代表）
tel.019-688-1502
- 陶房金沢
tel.019-673-6472
- 大沼道行
tel.080-1176-3666
- 平栗窯
tel.019-674-2843
など

右から大沼道行さんの飯碗、『陶房金沢』の「てまる・おかゆ碗」、『陶来』の飯碗、『平栗窯』のマグカップ



【南昌荘】

「みちのくの鉱山王」と称された実業家・瀬川安五郎が明治18年に建てた邸宅で、年間およそ60回の展示会や作品展が開催される盛岡屈指のアートスポット。盛岡市の保存建造物・保護庭園に指定されている建物や池泉回遊式の庭園の眺めも魅力。

岩手県盛岡市清水町13-46 tel.019-604-6633
開館／10:00～17:00（12～3月は16:00まで／最終日の催し物展示は16:00終了）
休館日／月・火曜、12月26日～1月10日
入館料／大人200円、小中学生100円



【盛岡手づくり村】

盛岡広域の工芸品や民芸品、食べ物などの伝統技術を集めた展示販売・体験施設。鉄器や染め物などの16工房が並ぶ「手づくり工房ゾーン」では、制作風景を間近で見学できるほか、職人から直接手ほどきを受けて「ものづくり体験」もできる。

岩手県盛岡市繫字尾入野64-102 tel.019-689-2201
営業時間／8:40～17:00
休業日／12月29日～1月3日



出合いの場、いろいろ。

作り手の思いが込められた「手しごと」が待っています

【小岩井CRAFT市】

毎年9月、雫石町小岩井で開催されるクラフトフェア。全国から集まった陶磁器、ガラス、木工、布物、漆器、竹工芸などあらゆるジャンルのクラフト作家70～80のテントが立ち並ぶ。作家との会話を楽しみながら、「手しごと」にふれられる。

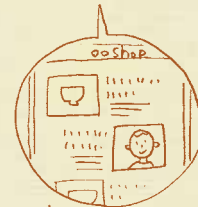
岩手県岩手郡雫石町丸谷地68-82
小岩井農場まきば園駐車場南すぐ『どんぐりコロコロ』
開催日／毎年9月の敬老の日とその前日の2日間
問い合わせ／tel.0193-78-2730（事務局／安部）



【岩手山麓工房フェスタ】

岩手山のふもと、滝沢村柳沢地区に住む『岩手山麓工芸会』のメンバーが設立。岩手県内在住の作家限定で、飲食出店も地元・滝沢村周辺の人たちと、岩手の手しごと・味が満喫できる。会場も当初の岩手山麓から村内のレジャースポットに移り、アクセスが便利に。

岩手県岩手郡滝沢村滝沢字砂込389-18
『馬っこパーク・いわて』内特設広場
開催日／9月末～10月初旬の金・土・日の3日間
問い合わせ／tel.019-688-5702（事務局／長内工房）



作品の他に、
作家の情報は
あつめよう！

1. お店に入ってみよう
クラフト店は敷居が高い印象があり、それが初めての店ならなおさら。でも入らないと、実物を見たり触れることができない。見るだけでもOKなので、まずは入ってみよう。わからないことは遠慮せず質問すると、情報が増える。
2. お店のHPをチェックしよう
クラフト店の品揃えはその日によって違うもの。たまたま在庫が切れていて目にする事ができなかった商品もHPにのっていることがあるので、要チェック。

この冊子で紹介したものは、ほんのごく一部です。あとはお店やイベントで、自分だけの「おきにいい」をみつけてください。

手しごとと出合うには？

「どこにあるの?」「どうすれば見つかる?」そんな“手しごと初心者”向けにアドバイス

3. 作家のブログをチェックしよう
店頭で目にする事ができなかった商品がのっていたり、展示会の情報も得られる。
4. 展示会に行こう
クラフト店はもちろん、最近はカフェや美容院などでも展示会の案内を置いている。好みの作品ならもちろん、そうでなくても立ち寄ってみよう。会場で新たな出会いがあるかも。
5. 展示会では芳名帳に名前を書こう
次回開催する時の案内を送ってもらえる。





岩手県産株式会社

【特産品プラザ らら・いわて】

岩手の「味」やお土産品など県産品を扱う。盛岡の中心地である岩手公園下にあるので、散策がてら立ち寄るのもおすすめ。南部鉄器、漆器、織物、染め物、木工品、陶器、琥珀、岩谷堂筆筒など、岩手の工芸品が一堂に揃う。選び方や使い方などもスタッフがアドバイスしてくれるので、気軽に聞いてみよう。

岩手県盛岡市菜園 1-3-6 農林会館 1F

tel.019-626-8178

営業時間 / 10:00-18:30

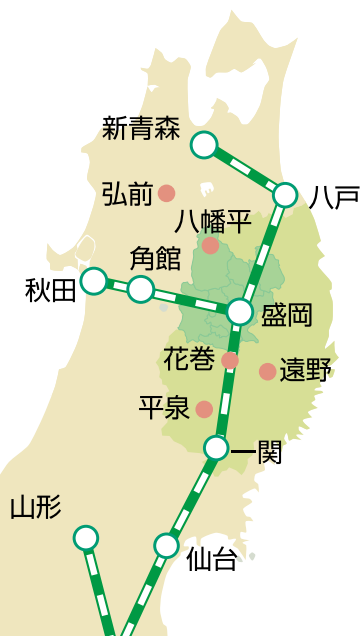
定休日 / 毎月第2水曜日

店長・吉田さんのおすすめ

南部鉄器や漆器など岩手には伝統的な工芸品が多く、「現代の生活の中では使いづらい」「お手入れが面倒」という声も聞くのですが、最近は、現代的なデザインや用途のものが増えていますし、お手入れも実際はそれほど面倒ではないんですよ。見てふれて、気になるものがあったら、一度ぜひ使ってみていただきたいですね。



手しごとが今に息づく北国・いわてへ。



発行 / 岩手県盛岡広域振興局経営企画部産業振興課

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸11番1号

tel.019-629-6511 <http://www.pref.iwate.jp>